



Dainichiseika

2025年3月期第2四半期(中間期) 決算説明会

彩りの、その先へ。

今日の未知は、未来への道

大日精化工業株式会社

2024年12月5日

■ サマリー	P3
■ 2025年3月期第2四半期(中間期) 連結決算	P5
■ 2025年3月期 通期業績予想	P16
■ 株主還元	P21
■ 参考資料	P23

■サマリー

2025年3月期 第2四半期(中間期) 実績

	中間期実績	前年同期比
売上高	621億円	+26億円 +4.4%
営業利益	34億円	+17億円 +103.4%

- 自動車向けは、北米向け好調も国内・中国向け低調
- 液晶ディスプレイ向けは、顔料低調、コーティング剤好調
- 坂東新工場への移転完了による合理化効果
- 東南アジア・インド等の海外現地法人が全般的に好調

2025年3月期 通期予想

	通期見込 (11月8日開示)	前回予想比 (8月7日開示比)
売上高	1,240億円	+7億円 +0.6%
営業利益	69億円	+9億円 +15.0%

- 自動車向けの回復は12月以降を見込む
- 液晶ディスプレイ向けは第2四半期会計期間以降弱含み
- 海外現地法人が引き続き好調に推移

株主還元

	中間配当金	期末配当金 予想	通期配当金 予想
配当金 (うち 特別配当)	66円 (15円)	66円 (15円)	132円 (30円)

- 中間配当金66円(うち特別配当15円)
- 旧川口製造事業所跡地の譲渡益に伴う株主還元として、2024年3月期から4期間にわたり、每期30円の特別配当を実施

■2025年3月期第2四半期(中間期) 連結決算

2025年3月期第2四半期(中間期) 連結決算 -連結損益計算書-

売上高 | 自動車向けコンパウンド・着色剤・ウレタン樹脂は米国向け好調も国内、中国向け低調に推移
液晶ディスプレイ向け顔料は、第2四半期会計期間以降低調もコーティング剤は好調に推移

営業利益 | 東南アジア・インド等の海外現地法人が好調に推移及び費用減(坂東新工場への移転完了による合理化効果など)

親会社株主に帰属する中間純利益 | 特別利益に固定資産売却益(旧川口製造事業所跡地) 77億円計上

単位:億円	2025年3月期 第2四半期(中間期) 実績	2024年3月期 第2四半期(中間期) 実績	増減 (対前年同期)	増減率 (対前年同期)	2025年3月期 第2四半期(中間期) 当初予想 (5月15日開示)	増減 (対当初予想)	増減率 (対当初予想)
売上高*1	621	595	+26	+4.4%	617	+4	+0.7%
営業利益	34	17	+17	+103.4%	27	+7	+28.7%
経常利益	37	21	+16	+74.9%	31	+6	+21.0%
親会社株主に帰属する 当期(中間)純利益	80	25	+54	+215.4%	79	+1	+1.6%
EBITDA*2	58	42	+15	+37.3%	50	+8	16.0%
研究開発費	15	14	+0	+1.5%			
海外売上高比率	27.0%	24.9%	+2.1%	-			
1株当たり当期 (中間)純利益	467.67円	140.98円	+326.69円	-	460.46円	+7.21円	-
為替レート	\$153.68円 €163.94円	\$139.13円 €154.45円	14.55円 円安 9.49円 円安	-	\$140.00円 €153.00円	13.68円 円安 10.94円 円安	-
ナフサ価格	77,950円	65,550円	+12,400円	-	67,000円	+10,950円	-

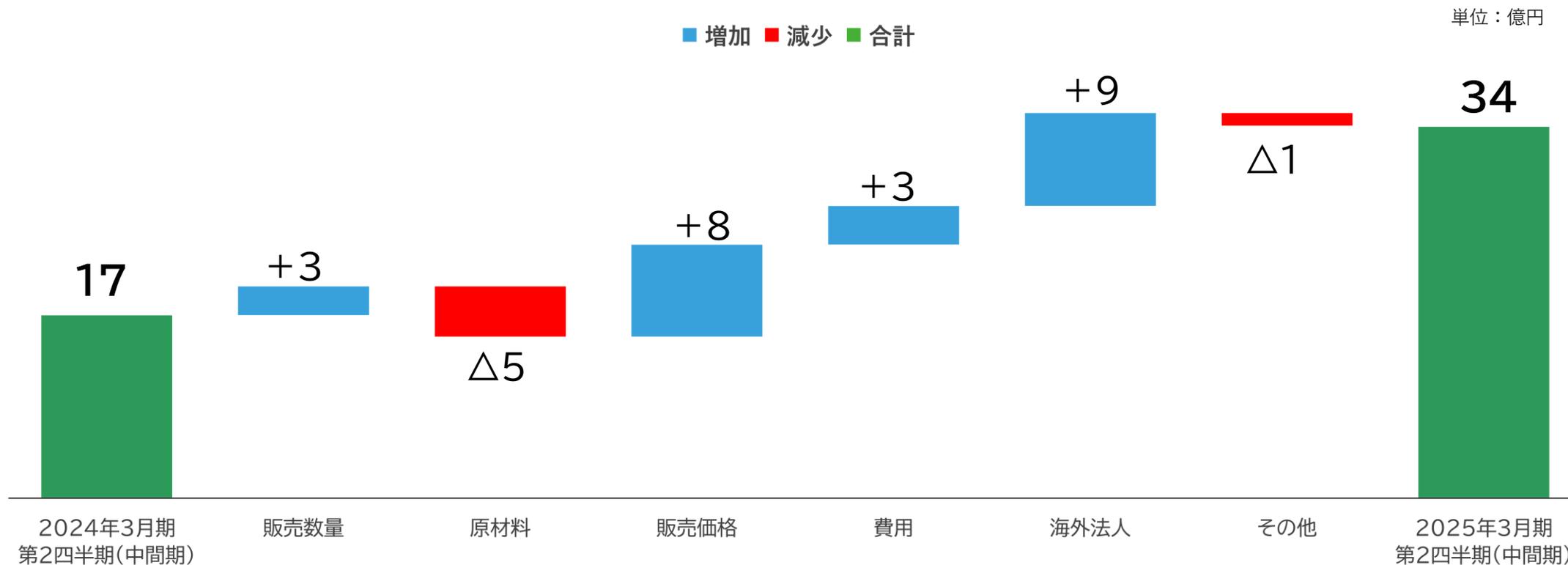
*1 「収益認識会計基準」適用により、売上高に含まれる有償受給材料を売上原価と相殺表示している金額

2025年3月期第2四半期(中間期) 196億円 2024年3月期第2四半期(中間期) 197億円

*2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

2025年3月期第2四半期(中間期) 連結決算 -連結営業利益の増減要因(前期・当期実績比較)-

- 販売数量** | 自動車向けコンパウンド・着色剤・ウレタン樹脂は米国向け好調も国内、中国向け低調に推移
液晶ディスプレイ向け顔料は、第2四半期会計期間以降低調もコーティング剤は好調に推移
- 原材料・販売価格** | 原材料価格は有機顔料等が上昇、販売価格は前期期中改定分の当期期初からの寄与分を含む
- 費用** | 坂東新工場への移転完了による合理化効果
- 海外法人** | 東南アジア・インド等現地法人のコンパウンド・着色剤・グラビアインキが好調に推移





2025年3月期第2四半期(中間期) 連結決算 -外部環境動向(1/2) 業界別-

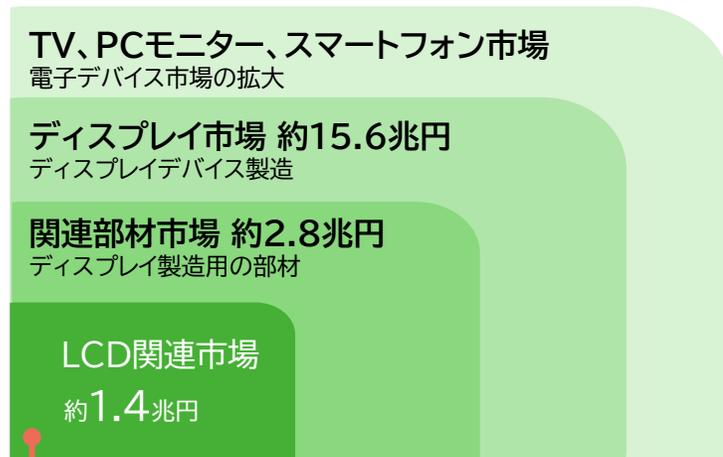
業界	前年同期比 (売上高)	外部環境	2025年3月期第2四半期(中間期) 実績
輸送機器	+1.7%	<ul style="list-style-type: none"> 自動車メーカーの生産停止などに伴う生産台数減 中国における日本車メーカーの不振も、アジア・米国では堅調 	<ul style="list-style-type: none"> 外部環境の悪化に加えてサプライチェーンの在庫調整が長引き、コンパウンド、着色剤、高耐久性ウレタン樹脂ともに国内は低調、海外は中国を除く地域で堅調 海外で新規テーマの立ち上げが寄与 水系表面処理剤(環境対応型ウレタン樹脂)の販売が大きく伸長 次世代車向け耐熱性高機能樹脂が実績化
情報・電子	+12.0%	<ul style="list-style-type: none"> パネルメーカーの稼働率は、中国市場不振を受けて低下傾向 印刷の版があるオフセット印刷から、版が不要なデジタル印刷の需要が拡大 電化製品の高機能化、小型化が進行 	<ul style="list-style-type: none"> カラーフィルター用顔料は、パネルメーカーの稼働低下と在庫調整を受け低調 コーティング剤は、PCモニター向けに動きがあり、好調に推移 スマートフォン、半導体向けの材料は好調に推移 低迷が続いていた中国向けフッ素電線用着色剤は、底を脱して上向き
包装	+7.3%	<ul style="list-style-type: none"> 国内は、昨年度、物価高による買い控えとサプライチェーン上の在庫過多による在庫調整が続いていたが、今年度は、在庫調整が進み、実需ベースに回復 海外は、堅調な経済成長による市場拡大を見込む 脱プラスチック、容器簡略化の進展 	<ul style="list-style-type: none"> グラビアインキは、国内堅調、海外好調、価格改定による増収あり バイオマスインキ、水性フレキシインキをはじめとするサステナビリティ貢献製品の販売は伸長
産業資材	+5.3%	<ul style="list-style-type: none"> 熱転写リボンは、サプライチェーンの過剰在庫が解消して堅調に推移 電力ケーブルは、張り替えや再生可能エネルギー需要で、底堅い動きの見通し 	<ul style="list-style-type: none"> 感熱転写用コーティング剤は、食品包装向けを中心に、徐々に回復 電力ケーブルは、安定して堅調に推移。半導体関連などの設備投資による需要増は来年以降の見通し
建材・設備	+1.3%	<ul style="list-style-type: none"> 国内の住宅着工件数は、コロナ禍の落ち込みからは回復も、今後は漸減傾向 リフォーム需要は上昇傾向 	<ul style="list-style-type: none"> 国内の新築需要は低調が続いているが、リフォーム需要は増加、全体として堅調な動き シェアの維持、合理化を進め、既存事業の体質強化を推進



2025年3月期第2四半期(中間期) 連結決算 -外部環境動向 (2/2) 関連市場の成長見通し-

カラーフィルター(CF)用顔料、コーティング剤

情報・電子業界関連の世界市場規模 ※1



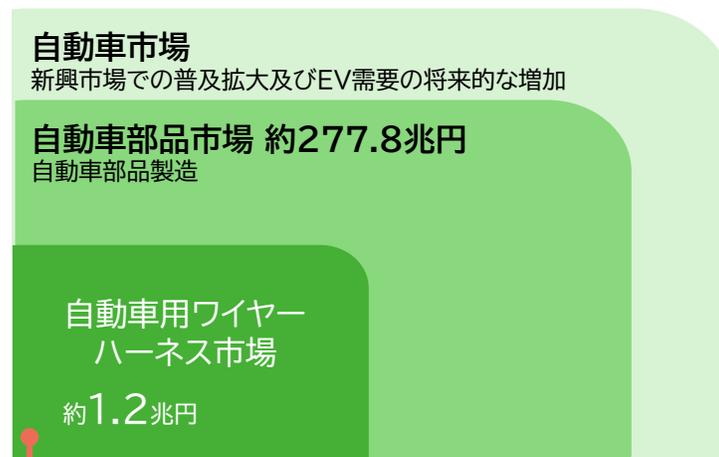
※1 富士キメラ総研レポートを元に当社作成

LCD関連市場の成長見通し
CAGR 4.0%



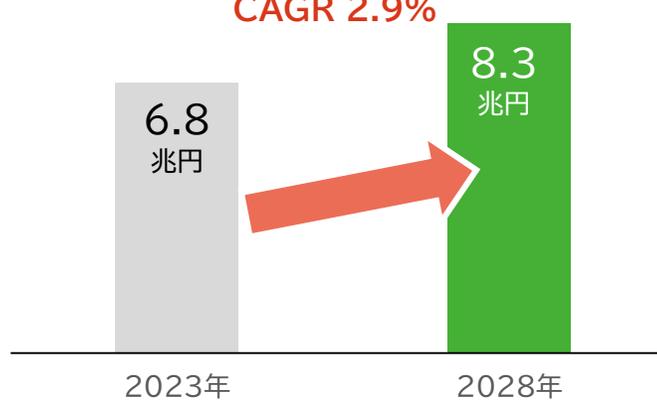
自動車向け樹脂コンパウンド・着色剤

自動車業界関連の世界市場規模 ※2



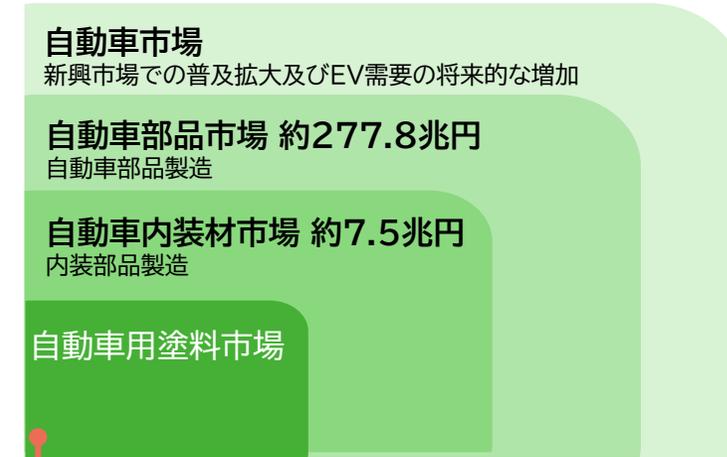
※2 QY Research、SDKI、MarketsandMarkets
レポートを元に当社作成

自動車用ワイヤーハーネス市場の成長見通し
CAGR 2.9%



自動車用ウレタン樹脂

自動車業界関連の世界市場規模 ※2



※2 QY Research、SDKI、MarketsandMarkets
レポートを元に当社作成

自動車用塗料市場の成長見通し
CAGR 3.2%



CAGR:年平均成長率



2025年3月期第2四半期(中間期) 連結決算 -セグメント別概況-

単位:億円

	2025年3月期 第2四半期(中間期) 実績	2024年3月期 第2四半期(中間期) 実績	増減 (対前年同期)	増減率 (対前年同期)	2025年3月期 第2四半期(中間期) 当初予想 (5月15日開示)	増減 (対当初予想)	増減率 (対当初予想)
売上高							
カラー&ファンクショナル プロダクト(C&F)	334	323	+11	+3.6%	339	△4	△1.2%
ポリマー&コーティング マテリアル(P&C)	125	119	+6	+5.5%	122	+3	+3.1%
グラフィック&プリンティング マテリアル(G&P)	160	152	+8	+5.3%	156	+4	+2.7%
計	621	595	+26	+4.4%	617	+4	+0.7%
営業利益							
カラー&ファンクショナル プロダクト(C&F)	15	7	+7	+102.3%	12	+3	+25.2%
ポリマー&コーティング マテリアル(P&C)	16	13	+3	+26.8%	14	+2	+20.3%
グラフィック&プリンティング マテリアル(G&P)	2	△3	+6	-	1	+1	+191.1%
計	34	17	+17	+103.4%	27	+7	+28.7%

2025年3月期第2四半期(中間期) 連結決算 -セグメント別概況(カラー&ファンクショナル プロダクト)-

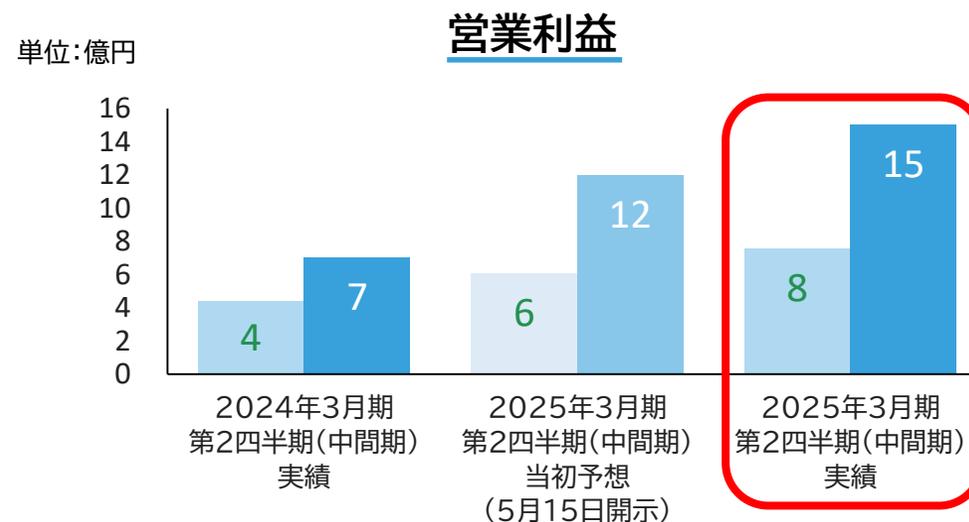


Color & Functional Products

顔料及び顔料の2次加工製品

国内の自動車向けや液晶パネル向けは低調も、アジア地区の底堅い需要や新規案件が寄与して増益

主な業界	戦略製品	前年同期比 (売上高)	2025年3月期第2四半期(中間期)実績 コメント
情報・電子	インクジェット用顔料・分散液	+ 2.4%	商業印刷需要が増加傾向で、堅調な動きが継続
情報・電子	カラーフィルター用顔料	△12.0%	パネル需要の低迷により、夏以降、サプライチェーンの在庫調整が継続
輸送機器	自動車用コンパウンド・着色剤	+ 7.8%	自動車メーカーの減産影響を若干受けたが、海外を中心に好調
情報・電子	機能性材料	+34.4%	半導体関連向けが増加。新規品は、得意先や展示会を通じて販売を拡大中



各年度の棒グラフ 左:戦略製品、右:セグメント全体
Dainichiseika Color & Chemicals Mfg. Co., Ltd.

2025年3月期第2四半期(中間期) 連結決算 -セグメント別概況(ポリマー&コーティング マテリアル)-



Polymer & Coating Materials

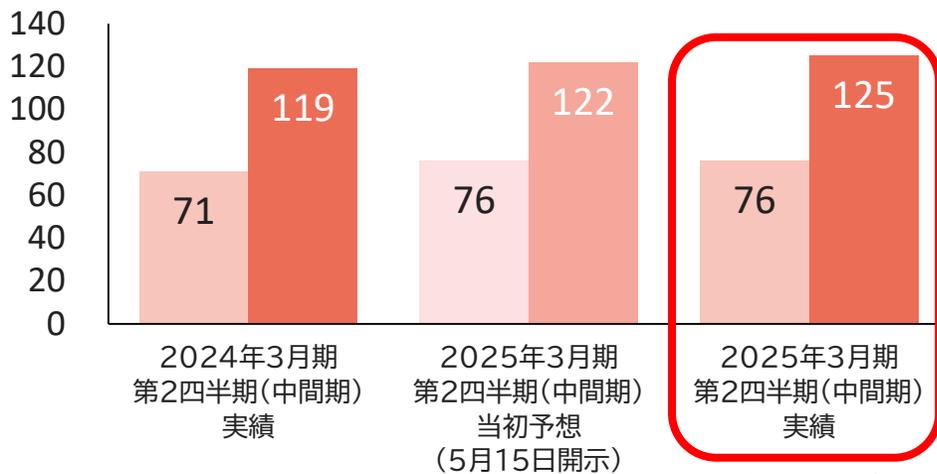
合成樹脂及び特殊コーティング剤

国内の自動車向けは、減産を受けて低調も、北米の自動車向けや中国のアパレル向けなどの伸長があり、増益

主な業界	戦略製品	前年同期比 (売上高)	2025年3月期第2四半期(中間期)実績 コメント
輸送機器	高耐久性ウレタン樹脂	+ 0.3%	自動車向けは、国内が低調も、北米は好調。アパレル向けは、販売が回復して好調
輸送機器	環境対応型ウレタン樹脂	+26.5%	サステナビリティ製品である水系の表面処理剤が日本、中国、米国で伸長
情報・電子	耐熱性高機能樹脂	2.8倍	高機能化が進むスマートフォン向けが好調に推移。次世代車向けも実績化
情報・電子	情報・電子業界向けコート剤	+16.8%	液晶パネル向けや半導体向けが高水準な出荷を維持

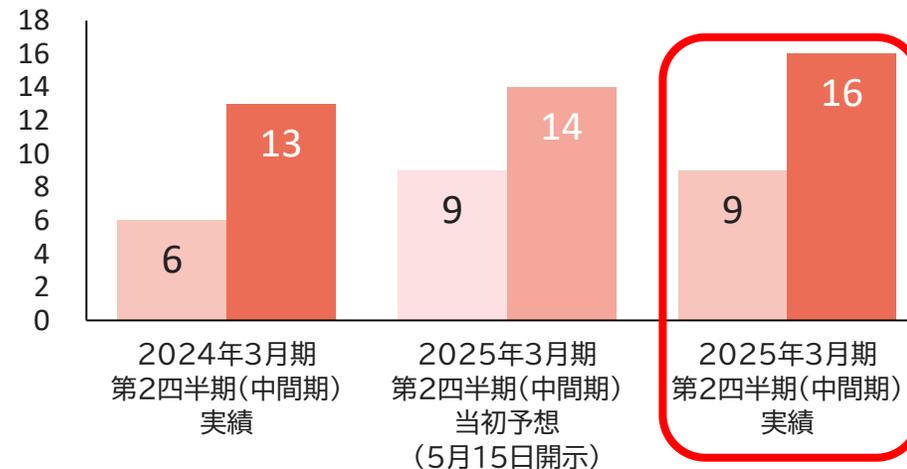
単位:億円

売上高



単位:億円

営業利益



各年度の棒グラフ 左:戦略製品、右:セグメント全体

2025年3月期第2四半期(中間期) 連結決算 -セグメント別概況(グラフィック&プリンティング マテリアル)-



Dainichiseika

Graphic & Printing Materials

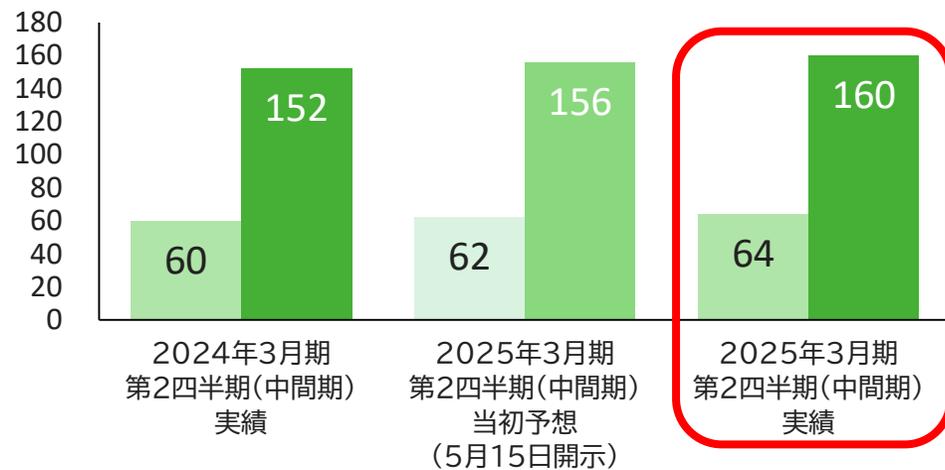
パッケージ用及び広告出版用インキ

国内は、坂東新工場への移転完了による合理化、価格改定を実施・海外も、好調に推移し、営業利益は大きく改善して黒字化

主な業界	戦略製品	前年同期比 (売上高)	2025年3月期第2四半期(中間期)実績 コメント
包装	ラベル用インキ、水性フレキソ	+ 7.2%	ラベル向けは、猛暑及びインバウンド消費の拡大もあり堅調、水性フレキソもオムツ向けが堅調
情報・電子	成長分野への拡販	+ 5.9%	情報・電子向けはスマートフォン用が中心、中国向けが前期は低調も今期は回復
包装	アジア向けインキ	+ 8.7%	販売価格の適正化が進み、増収増益を達成

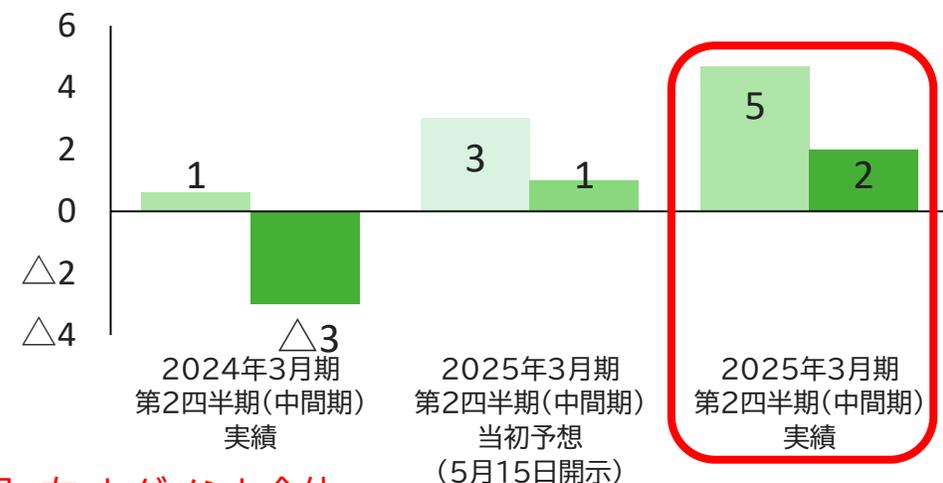
単位:億円

売上高



単位:億円

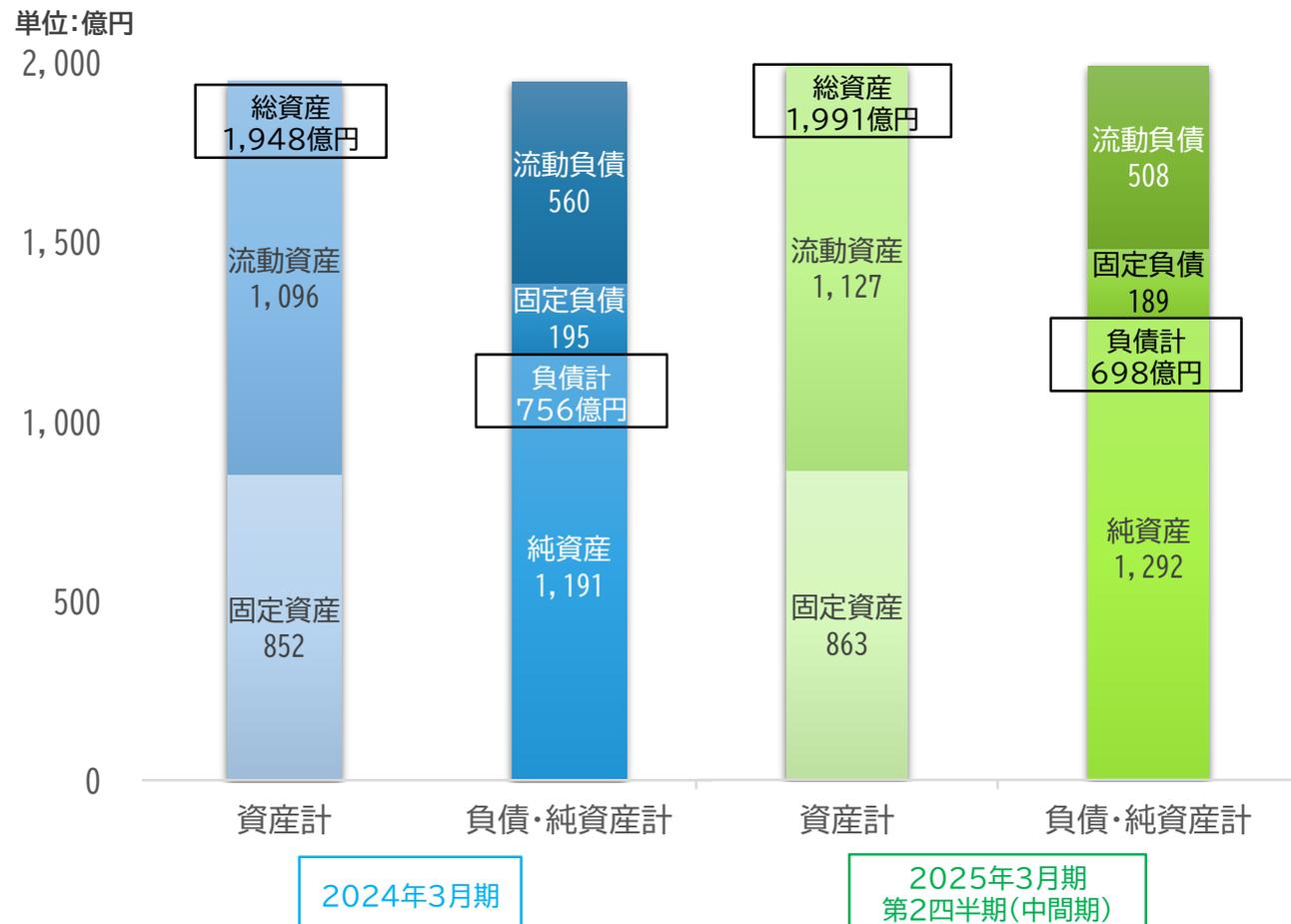
営業利益



各年度の棒グラフ 左:戦略製品、右:セグメント全体
Dainichiseika Color & Chemicals Mfg. Co., Ltd.

2025年3月期第2四半期(中間期) 連結決算 -連結貸借対照表-

- 資 産** | 総資産43億円増加・固定資産売却(旧川口製造事業所)により「現金及び預金」増加、設備投資により「有形固定資産」増加
- 負 債** | 負債計58億円減少・借入金返済により「有利子負債」減少
- 純 資 産** | 純資産101億円増加・中間純利益の計上による増、配当金前期末@70円実施(普通配当40円+特別配当30円)による減



単位:億円

主な科目	2024年3月期	2025年3月期第2四半期(中間期)	増減	説明
現金及び預金	235	272	+36	固定資産売却収入により一時的に増加
有形・無形固定資産	490	497	+7	取得+29億・減価償却△23億
有利子負債	252	219	△33	固定資産売却収入を一時的に借入返済へ充当

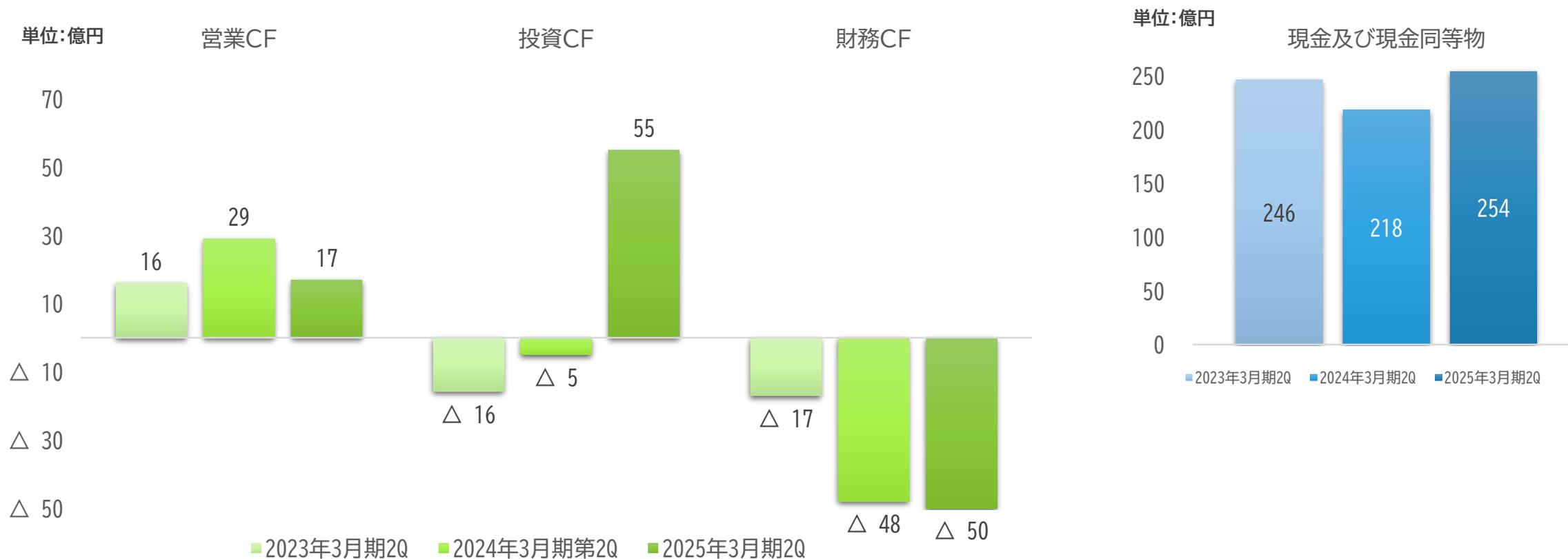
	2024年3月期	2025年3月期第2四半期(中間期)	増減
DEレシオ	0.22	0.17	△0.05
自己資本比率	59.9%	63.7%	+3.8
1株当たり純資産額	6,804.81円	7,393.07円	+588.26円

2025年3月期第2四半期(中間期) 連結決算 -連結キャッシュ・フロー計算書-

営業CF | 税金等調整前当期純利益+113・減価償却費+23・運転資本(売掛債権・仕入債務・棚卸資産・その他)△31

投資CF | 設備投資△25・有形固定資産の売却+76

財務CF | 長短借入金△33・配当金支払い△12



■2025年3月期 通期業績予想



2025年3月期 通期業績予想 -連結損益計算書-

売上高 | 自動車向けの本格的な回復は第3四半期会計期間後半以降の見込み、海外現地法人は、包装・アパレル向けを中心に好調に推移

営業利益 | 東南アジア等の海外法人が好調に推移する見込み及び坂東新工場移転の合理化効果などにより通期予想を上方修正

親会社株主に帰属する当期純利益 | 税金費用(法人税等)の見込み変更により前回予想を据え置き

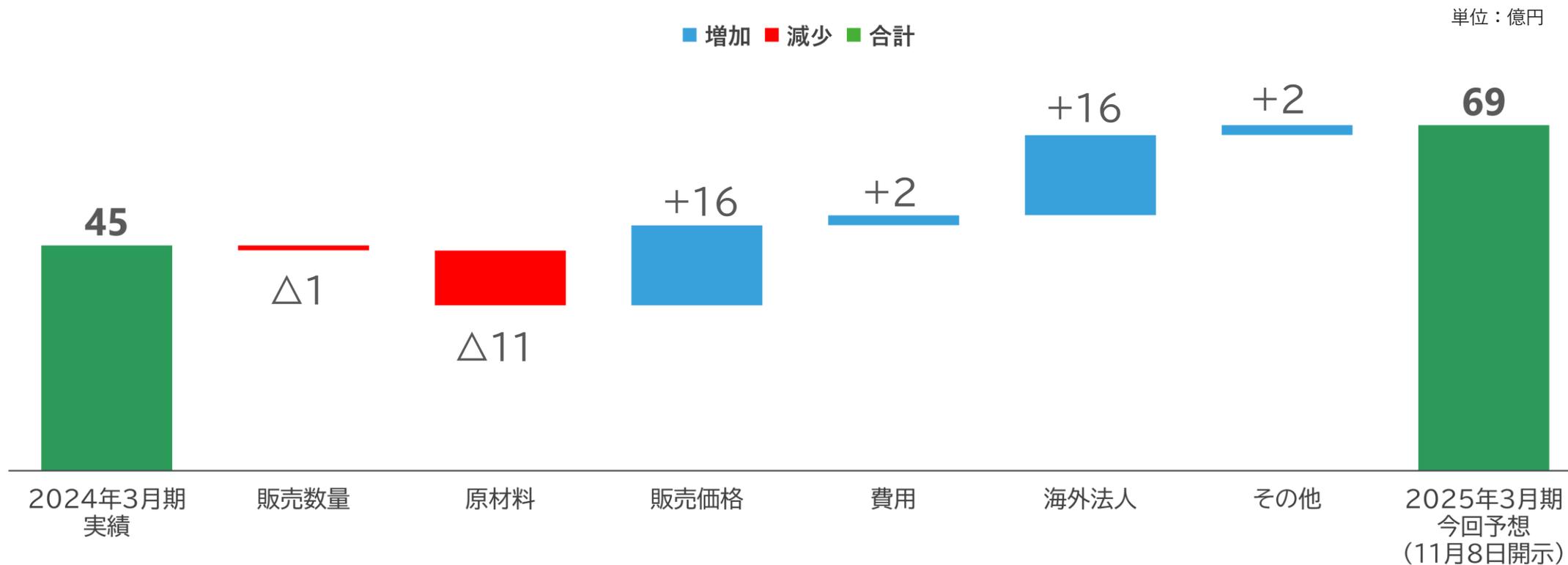
単位:億円	2025年3月期 今回予想 (11月8日開示)	2024年3月期 実績	増減 (対前期)	増減率 (対前期)	2025年3月期 前回予想 (8月7日開示)	増減 (対前回予想)	増減率 (対前回予想)
売上高*1	1,240	1,198	+41	+3.5%	1,233	+7	+0.6%
営業利益	69	45	+23	+51.6%	60	+9	+15.0%
経常利益	75	50	+24	+49.9%	66	+9	+13.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	106	36	+69	+189.6%	106	-	-%
EBITDA*2	117	97	+19	+20.2%	108	+9	+9.0%
1株当たり 当期純利益	617.67円	207.95円	+409.72円	-	617.84円	△0.17円	-
為替レート	\$151.46円 €164.56円	\$143.34円 €156.74円	8.12円 円安 7.82円 円安	-	\$152.36円 €164.70円	0.90円 円高 0.14円 円高	-
ナフサ価格	77,950円	69,100円	+8,850円	-	79,000円	△1,050円	-

*1 「収益認識会計基準」適用により、売上高に含まれる有償受給材料を売上原価と相殺表示している金額
2024年3月期 410億円

*2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

2025年3月期 通期業績予想 -連結営業利益の増減要因-

- 販売数量 | 自動車向けの本格的な回復は第3四半期会計期間後半以降を見込む、海外現地法人は、包装・アパレル向けを中心に好調に推移
- 原材料・販売価格 | 原材料価格高止まり、販売価格の改定を進める
- 費用 | 坂東新工場への移転完了による合理化効果・労務費の減少
- 海外法人 | インドネシア子会社のグラビアインキ、東南アジア・インド子会社のコンパウンド等が好調に推移



2025年3月期 通期業績予想 -外部環境動向(業界別)及び25年3月期下期のトレンドとトピックス-

業界	上期→下期	外部環境	関連する戦略製品
輸送機器	UP 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自動車メーカーの生産停止が解除され、生産台数が増加 ◆中国における日本車メーカーの不振も、アジア・米国では堅調。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ コンパウンド、着色剤 ◆ 高耐久性ウレタン樹脂 ◆ 環境対応型ウレタン樹脂
情報・電子	DOWN 	◆パネルメーカーの稼働率は、中国市場不振を受けて低下傾向	<ul style="list-style-type: none"> ◆ カラーフィルター用顔料 ◆ コーティング剤
	FLAT 	<ul style="list-style-type: none"> •版が不要なデジタル印刷の需要が拡大 •電化製品の高機能化、小型化が進行 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ インクジェット用顔料・分散液 ◆ 耐熱性高機能樹脂
包装	FLAT 	<ul style="list-style-type: none"> •国内は、ラベル向けなど猛暑による消費の拡大がありました。暑い時期が過ぎて、需要の落ち着きが見られる •海外は、堅調な経済成長による市場拡大を見込む •脱プラスチック、容器簡略化の進展 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ラベル用インキ、水性フレキシソ ◆ アジア向けインキ

トピックス HPU*の製造設備の投資を実施、稼働は来年度予定

*CO2を原料にした環境対応型ウレタン樹脂
 ガスバリア性、金属密着性、硬化後の特性(耐久性)に優れており、
 バインダーや添加剤、バリア性コーティング剤が想定される用途





2025年3月期 通期業績予想 -セグメント別概況-

単位:億円

	2025年3月期 今回予想 (11月8日開示)	2024年3月期 実績	増減 (対前期)	増減率 (対前期)	2025年3月期 前回予想 (8月7日開示)	増減 (対前回予想)	増減率 (対前回予想)
売上高							
カラー&ファンクショナル プロダクト(C&F)	670	655	+14	+2.3%	674	△4	△0.6%
ポリマー&コーティング マテリアル(P&C)	250	239	+10	+4.6%	247	+3	+1.2%
グラフィック&プリンティング マテリアル(G&P)	320	303	+16	+5.5%	311	+9	+2.9%
計	1,240	1,198	+41	+3.5%	1,233	+7	+0.6%
営業利益							
カラー&ファンクショナル プロダクト(C&F)	30	24	+5	+22.3%	28	+2	+7.1%
ポリマー&コーティング マテリアル(P&C)	32	26	+5	+20.3%	30	+2	+6.7%
グラフィック&プリンティング マテリアル(G&P)	7	△5	+12	-	2	+5	+250.0%
計	69	45	+23	+51.6%	60	+9	+15.0%

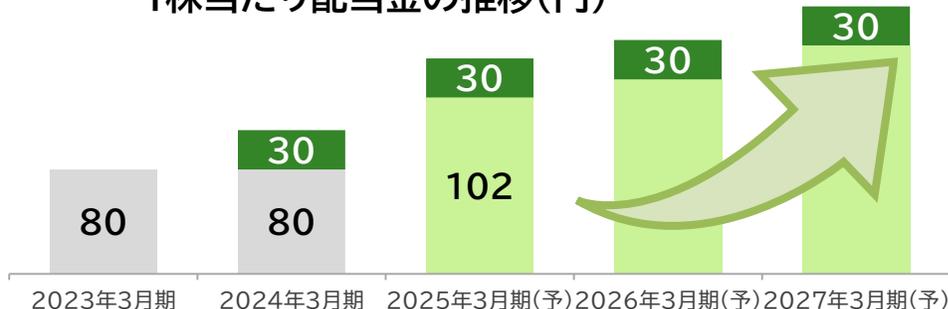
■株主還元

株主還元

中期経営計画期間における株主還元方針

- 総還元性向40～50%もしくは1株当たり年間配当金100円を下限とする普通配当を予定
*2025年3月期についても、当社旧川口製造事業所譲渡に伴う特別利益を配当原資の範囲から除外し、別途、特別配当(30円)として実施
- 特別利益(川口製造事業所譲渡)に係る配当を2024年3月期から4期間にわたり、毎期1株当たり30円の特別配当を実施
- 自己株式の取得を機動的に実施

1株当たり配当金の推移(円)



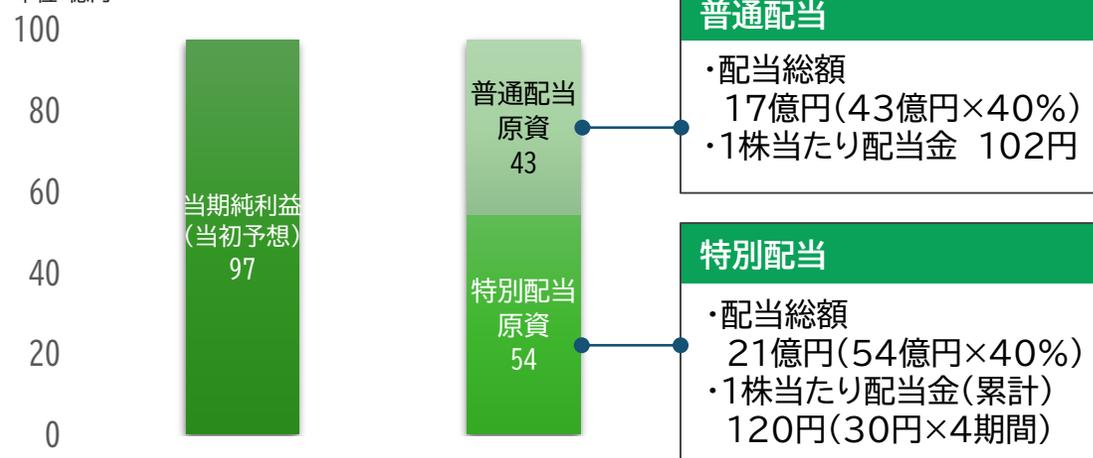
	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期(予)	総還元性向基準	総還元性向基準
普通配当	80	80	102		
特別配当	-	30	30	30	30
配当性向	73.7%	52.9%	*23.3% (実質40%)	40~50% +特別配当	40~50% +特別配当

*2025年3月期は特別利益のうち旧川口製造事業所売却益(法人税控除後)を控除した金額に対して配当性向40%相当額

2025年3月期の株主還元

- 通期配当予想の考え方
 - ・普通配当: 通期当期純利益予想から当社旧川口製造事業所の税引後譲渡益を控除後の40～50%を原資として普通配当を実施(通期配当金の下限を100円とする)
 - ・特別配当: 当社旧川口製造事業所の税引後譲渡益(特別利益から法人税等相当額を控除)40%を原資として、2024年3月期から4期間にわたり年間30円の特別配当を実施
- 中間配当額 66円(内訳: 普通配当51円・特別配当15円)

単位: 億円



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

- 2023年12月13日開示済「資本コストや株価を意識した経営実現に向けた対応について」の更新については、投資家の皆さまとの対話内容等を踏まえて改めて経営幹部及び取締役会にて議論し、2025年5月を目途に開示する予定です。

■参考資料

企業理念

「人に興味を持とう」
「新しいことに興味を持とう」
「未来に興味を持とう」

会社名	大日精化工業株式会社 Dainichiseika Color & Chemicals Mfg. Co., Ltd.
本社所在地	東京都中央区日本橋馬喰町一丁目7番6号
創業	1931年10月16日
代表者	代表取締役社長 高橋 弘二(たかはし こうじ)
資本金	100億39百万円(東京証券取引所 プライム市場)
従業員数	連結3,634名(2024年3月31日現在)
連結売上高	1,198億24百万円(2024年3月期)
グループ会社	国内9社 海外19社



1931年 創業

顔料の多くを輸入に頼っていたことを憂い顔料の国産化を目指して創業

創業者 高橋 義博



- ① 有機無機合成 顔料処理技術
- ② 分散加工技術
- ③ 樹脂合成技術

1938年 顔料生産開始



1940年代～ 顔料加工分野への進出

- 1944年 顔料の2次加工製品として、印刷インキ上市
- 1948年 塩化ビニル用着色剤「ビニルトナー」上市
- 1950年 塩ビ用グラビアインキを上市
- 1953年 合成繊維原液着色剤、捺染材料・着色剤 上市
- 1955年 各種樹脂用着色剤の開発上市

1960年代～ 海外進出の本格化

- 1962年 香港に営業拠点設立後、マニラ、ソウル、ニューヨークに開設
- 1968年 東海製造事業所開設
- 1974年 台湾に生産拠点設立
- 1984年 ミラノに営業拠点設立

非色彩分野への事業拡大

- 1967年 ウレタン樹脂事業参入、液状合成皮革用ポリウレタンを上市
- 1970年 食品包装フィルム用グラビアインキを開発上市
- 1975年 日本初のコンピュータカラーマッチングシステムを発表
- 1976年 紫外線硬化型コーティング剤事業参入
- 1977年 熱可塑性ウレタンエラストマーを上市



1980年代～ 海外生産拠点の強化

- 1988年 アメリカに生産拠点設立
- 1989年 タイに生産拠点設立
- 1995年 インドネシア、東莞に生産拠点設立
- 2003年 上海に複合生産拠点設立
- 2006年 ベトナムに生産拠点設立
- 2008年 インドに生産拠点設立

環境配慮型製品の開発

- 1980年 キナクリドン顔料を上市
- 1985年 シリコーン・ウレタン樹脂
- 1985年 天然物由来ポリマーキチン・キトサン
- 1986年 軟質硬質両用塩ビ用着色剤（CCMと連動）
- 1998年 ペットボトル用剥離脱色型グラビアインキ
- 1998年 非塩ビ用高濃度マスターバッチ

2000年代～ 新分野への展開と 基盤事業整備

- 2013年 メキシコに生産拠点設立
- 2015年 インドネシアの生産能力増強
- 2017年 インドの生産能力増強
- 2019年 佐倉製造事業所、アメリカ、タイの生産能力増強

環境配慮型製品の拡大

- 1998年 IJ分散体開発
- 2003年 CF用顔料本格販売
- 2005年 フィルム用水性フレキシインキ
- 2011年 CO2を原料にしたウレタン樹脂
- 2013年 バイオマスTPU
- 2016年 バイオマス・グラビアインキ
- 2018年 バリア性コーティング剤・接着剤
- 2021年 生分解性微粒子



- 2021年
- 坂東製造事業所
- 佐倉テクノロジーイノベーションセンター

(億円)
2,000

1,500

1,000

500

0

1940年度

1960年度

1980年度

2000年度

2020年度

創業

コア技術の確立

推進

拡大

深化

当社事業セグメントと最終製品のイメージ

	Color & Functional Products	Polymer & Coating Materials	Graphic & Printing Materials
	顔料及び顔料の2次加工製品	合成樹脂及び特殊コーティング剤	パッケージ用及び広告出版用インキ
主な製品	<ul style="list-style-type: none"> ● 顔料・カラーベース ● 繊維用着色剤・捺染剤 ● プラスチック用着色剤・機能剤 	<ul style="list-style-type: none"> ● ウレタン樹脂 ● コーティング剤 ● 天然物高分子 	<ul style="list-style-type: none"> ● グラビアインキ ● フレキソインキ ● オフセットインキ
主な利用用途	<ul style="list-style-type: none"> ・ 塗料・印刷インキ ・ トナー・IJプリンタ用インキ ・ LCDカラーフィルタ ・ 建材・日用品・紙製品 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合成皮革(家具、衣料) ・ 車両内装材・建材・日用品 ・ 電線・ケーブル・ベルト ・ 化粧品 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品・日用品包装材 ・ 食品用トレイ 
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車両・産業資材 ・ インテリアファブリック ・ アパレル製品 ・ 紙 	<ul style="list-style-type: none"> ・ LCDパネル ・ 加飾用フィルム ・ パソコン・事務機器 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲料ボトルラベル ・ 産業資材・建材 ・ ダンボール・包装材 
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車両 ・ 家電・日用品・アウトドア用品 ・ 産業資材・農業資材・建材 ・ 食品包装・トイレタリー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化粧品 ・ 排水浄化・水処理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広告・書籍 ・ パッケージ 

当社セグメントの販売先業界

B to B メーカーとして多様な業界に最適な製品を提供

Color & Functional Products | 顔料及び顔料の2次加工製品

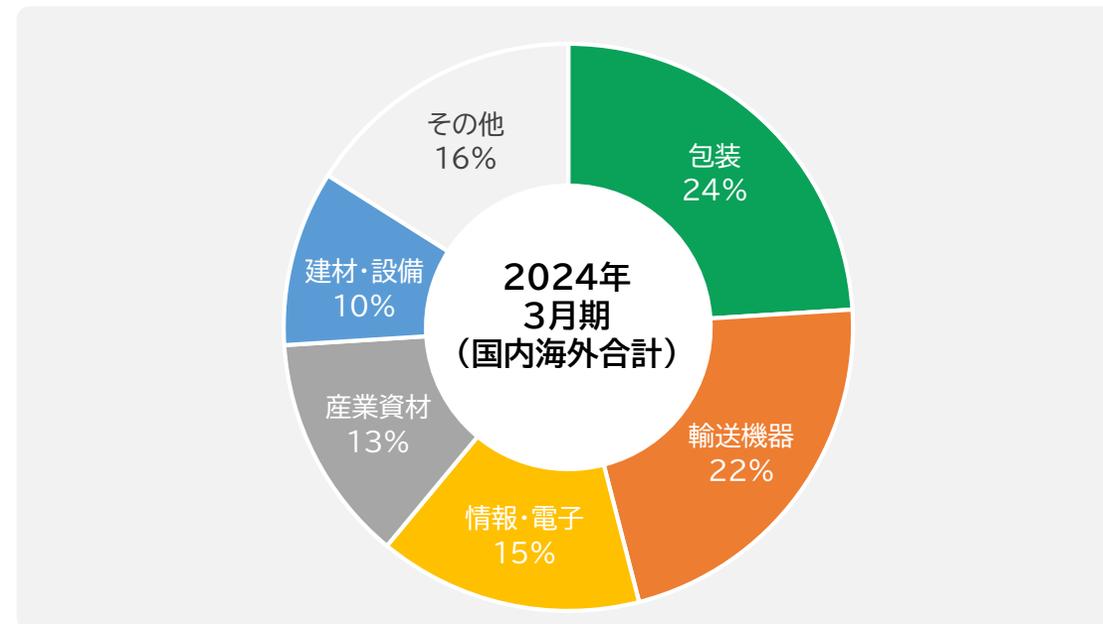
- 輸送機器
- 情報・電子
- 包装
- 産業資材
- 建材・設備

Polymer & Coating Materials | 合成樹脂及び特殊コーティング剤

- 輸送機器
- 情報・電子
- 衣料品・服飾品
- 産業資材
- 建材・設備

Graphic & Printing Materials | パッケージ用及び広告出版用インキ

- 包装
- 広告・出版



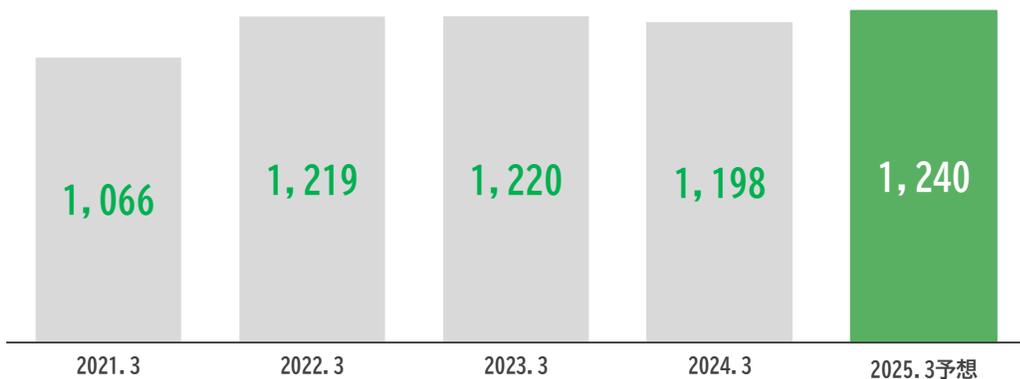
お取引先

大日精化工業の製品を用いて、多様な最終製品に加工

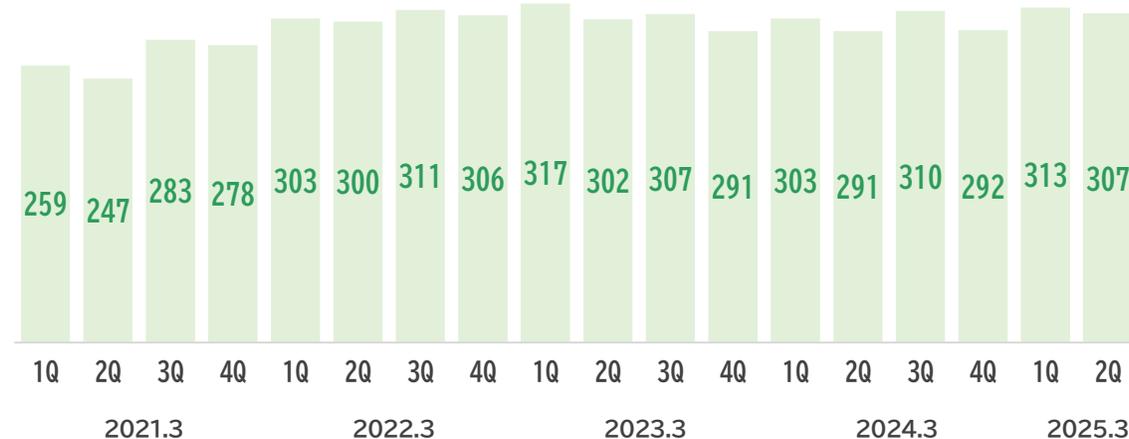


業績推移(通期・四半期)

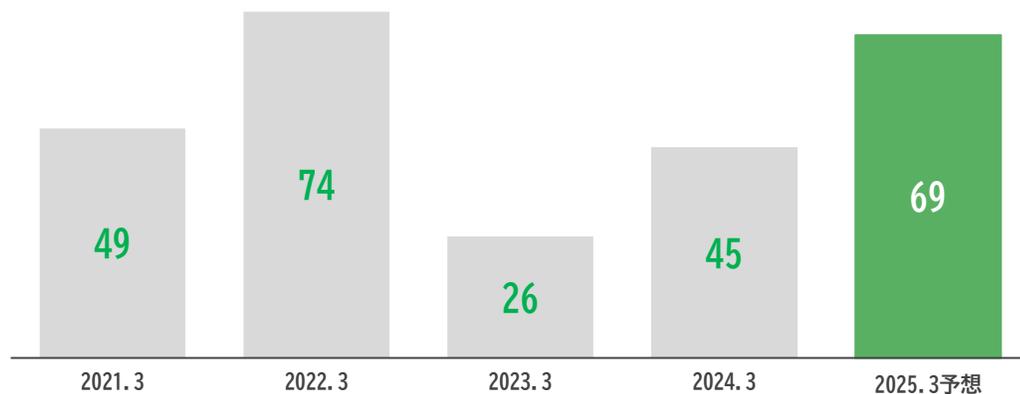
売上高・通期(単位:億円)



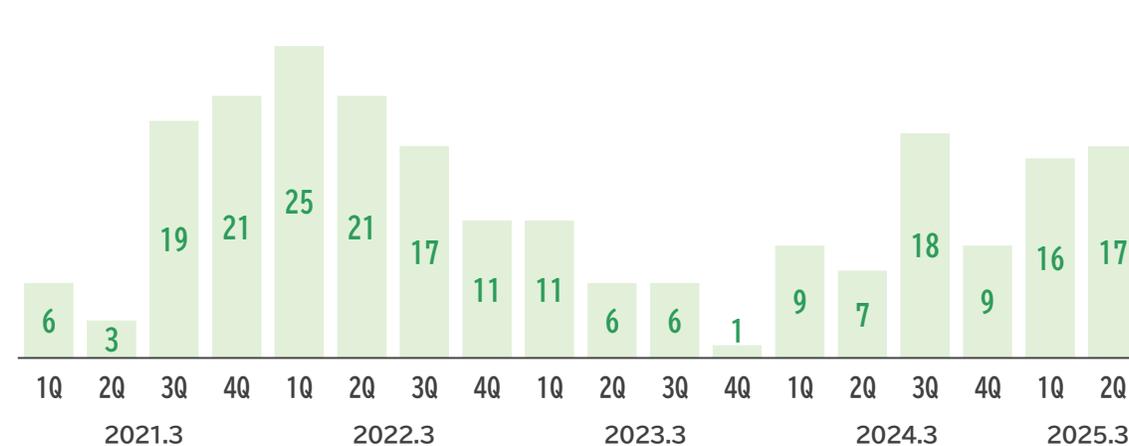
売上高・四半期(単位:億円)



営業利益・通期(単位:億円)



営業利益・四半期(単位:億円)



10年後のありたい姿

機能性マテリアル分野のエクセレントカンパニーになる



中期経営計画のグループ数値目標 と セグメント別数値目標

グループ数値目標

	2024年3月期 実績	2027年3月期 計画
売上高	1,198億円	1,300億円
営業利益	45億円	78億円
経常利益	50億円	84億円
当期純利益	36億円	58億円
ROE	3.2%	4.6%
ROA	2.6%	4.3%

セグメント別数値目標

セグメント		2024年3月期 実績	2027年3月期 計画
カラー＆ ファンクショナル プロダクト (C&F)	売上高	655億円	718億円
	営業利益	24億円	34億円
	営業利益率	3.7%	4.7%
ポリマー＆ コーティング マテリアル (P&C)	売上高	239億円	271億円
	営業利益	26億円	41億円
	営業利益率	11.1%	15.1%
グラフィック＆ プリンティング マテリアル (G&P)	売上高	303億円	311億円
	営業利益	△5億円	3億円
	営業利益率	△1.9%	1.0%
合計	売上高	1,198億円	1,300億円
	営業利益	45億円	78億円
	営業利益率	3.8%	6.0%



外部環境動向

業界	2024年3月期～ 2027年3月期 CAGR	外部環境	重点施策
輸送機器	3.6%	<ul style="list-style-type: none"> 中期的には半導体不足が解消して、グローバルで安定的な成長を見込む。 CASEによる市場の変化があり、電装品は生産台数以上の増加。 	<ul style="list-style-type: none"> コンパウンド・着色剤は、増産体制を整備して、事業機会を国内外で獲得する。 ウレタン樹脂は、北米で新規ユーザーの開拓。水性ウレタン樹脂、水性表面処理剤などサステナビリティ貢献製品の実績化。 自動車用を中心に環境に配慮した加飾フィルムの開発、販売に注力。
情報・電子	2.8%	<ul style="list-style-type: none"> ディスプレイ市場は、テレビの大型化に伴って成長する見通し。 版を持たないインクジェット印刷方式が増加。 電化製品の高機能化、小型化が進行。 	<ul style="list-style-type: none"> カラーフィルター用顔料は、新規アイテムを獲得して、シェアアップを狙う。 アンチグレアハードコート材だけでなく周辺部材の開発及び実績化。 インクジェット分散液は、欧州向けに新規ユーザーの開拓。 耐熱性高機能樹脂の開発及び実績化。
包装	1.8%	<ul style="list-style-type: none"> 国内は、物価高による買い控えとサプライチェーン上の在庫過多による在庫調整が続き需要減少。今後は、在庫調整が進み、実需ベースに回復する。 海外は、堅調な経済成長による市場拡大を見込む。 脱プラスチック、容器簡略化の進展。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般包材に加えて、塗加工技術を活用した産業向けのインキ開発と拡販。 増能力投資により、海外の旺盛な需要を取り込む。 機能材や環境に配慮した製品に注力。
産業資材	2.2%	<ul style="list-style-type: none"> 国内の半導体生産が本格化して、導電性コンテナやトレイは需要増加する見通し。 電力ケーブルは、張り替えや再生可能エネルギー需要で、底堅い動きの見通し。 	<ul style="list-style-type: none"> 導電性電子電材向けトレイなど付加価値のある容器のテーマ獲得に注力。 ケーブルの多層化対応や合理化で利益確保を図る。
建材・設備	1.5%	<ul style="list-style-type: none"> 国内の住宅着工件数は、コロナ禍の落ち込みからは回復も、今後は漸減傾向。 リフォーム需要は上昇傾向。 	<ul style="list-style-type: none"> 顧客の海外展開(北米など)に対応してテーマを獲得する。 シェアの維持、合理化を進めつつ、既存事業の体質強化を図る。

CAGR:年平均成長率
売上の単純合算ベース

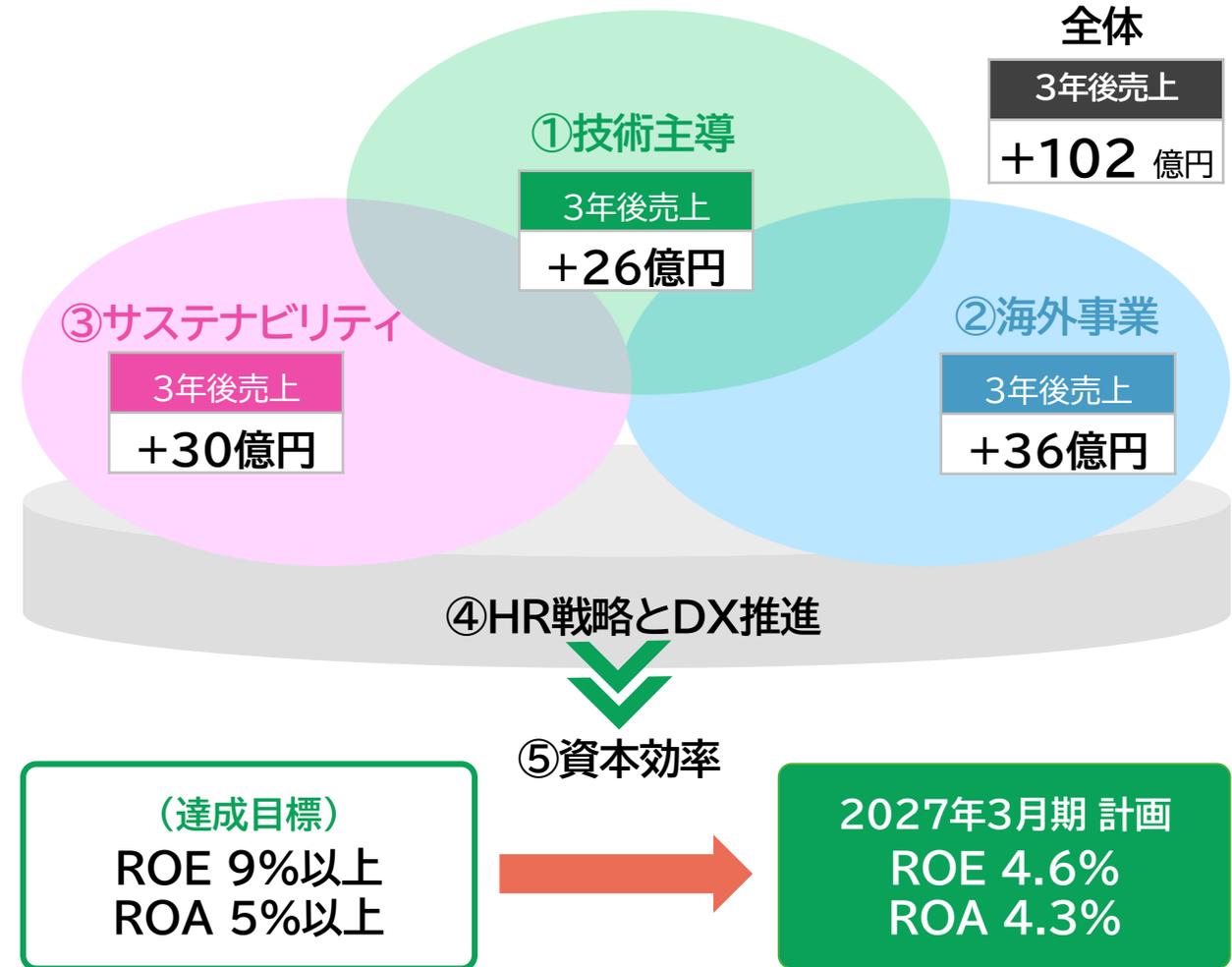


中期経営計画の基本戦略

10年後のありたい姿に向けた基本戦略

- ① 技術主導による競争優位性の確保
- ② 事業基盤の強化のための海外事業の拡大
- ③ サステナブル社会の実現に向けた ESG重視の経営推進
- ④ HR戦略・DX推進 今回、新たに追加
- ⑤ 資本効率を重視した経営

新中期経営計画-売上増額(対 2024年3月期実績)





150億円規模の合計投資額を見込む

現業とのシナジーなど、投資に対するリターンを精査しつつ実行

M&A

エリア : 海外
 業界/領域 : 輸送機器・情報電子
 完了目標 : 2027年3月期
 投資額 : 40~100億円



M&A/資本提携

エリア : 日本
 業界/領域 : 輸送機器・情報電子
 完了目標 : 2027年3月期
 投資額 : ~30億円~



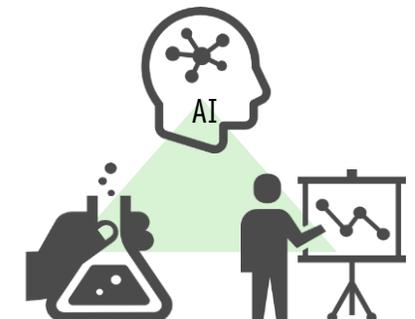
新工場建設

エリア : アジア
 製品 : 樹脂コンパウンド・着色剤
 完了目標 : 2028年3月期以降
 (前倒しも検討)
 投資額 : (30~70億円)



DX投資・人的資本投資

エリア : -
 製品 : -
 完了目標 : 2027年3月期
 (以降も継続)
 投資額 : -





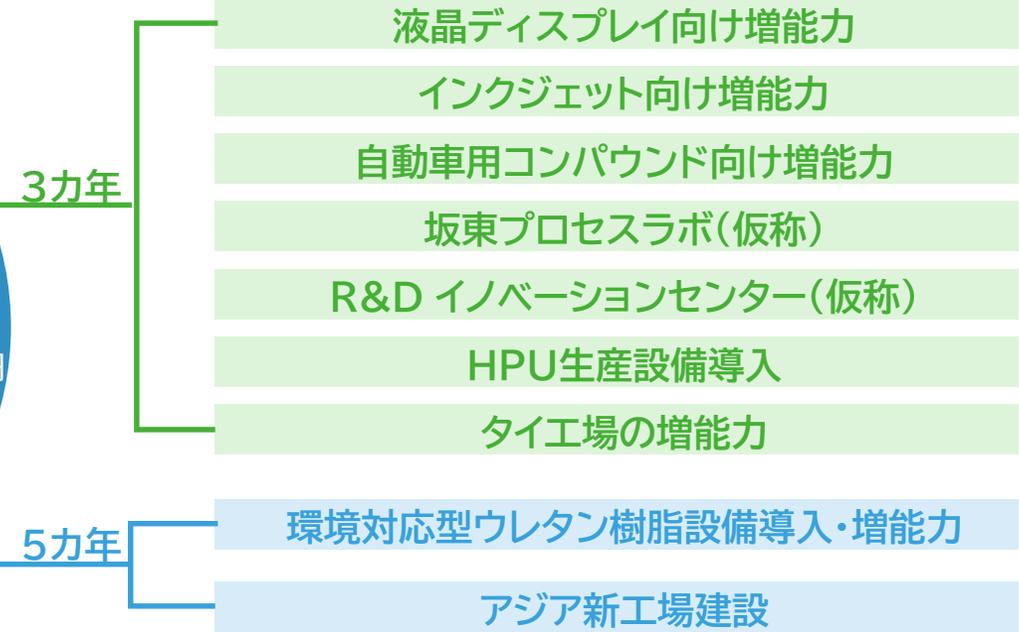
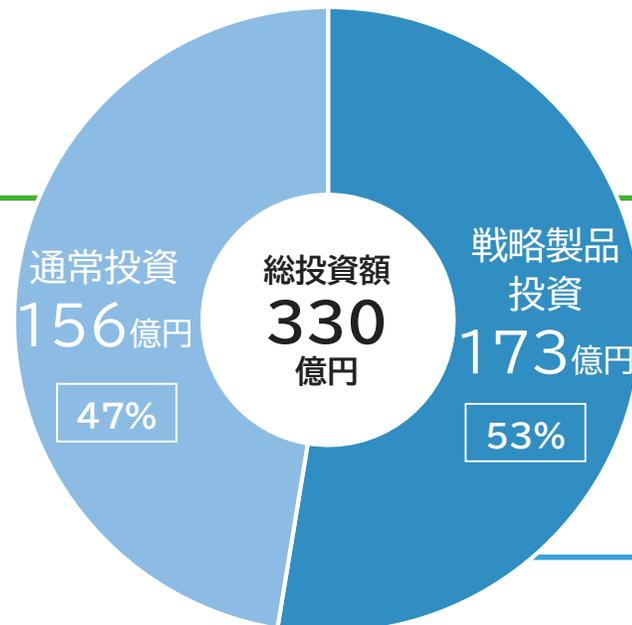
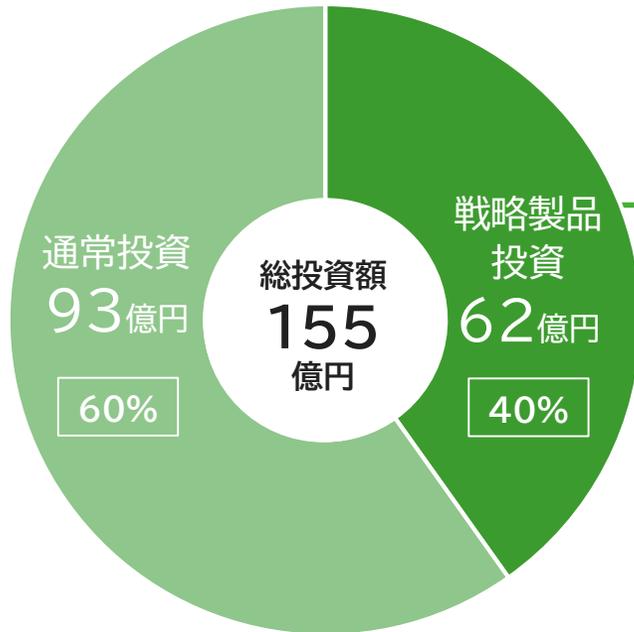
投資戦略 -設備投資-

- 3カ年の設備投資 ……総額155億円の40%が戦略製品投資、60%が通常投資
- 5カ年の設備投資 ……総額330億円の53%が戦略製品投資、47%が通常投資

3カ年 設備投資総額

5カ年 設備投資総額

主な戦略製品投資 内訳



※ 上記設備投資額は発注ベースの数字

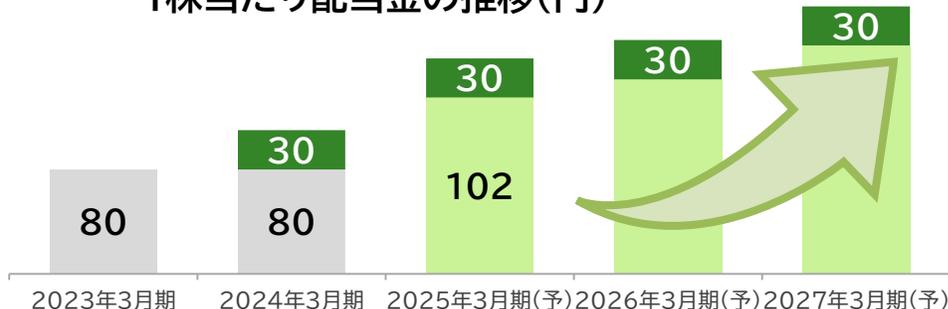


株主還元方針/キャッシュ・アロケーション

中期経営計画期間における株主還元方針

- 総還元性向40～50%もしくは1株当たり年間配当金100円を下限とする普通配当を予定
*2025年3月期については、当社川口製造事業所譲渡に伴う特別利益を配当原資の範囲から除外し、別途、特別配当(30円)として実施
- 特別利益(川口製造事業所譲渡)に係る配当を2024年3月期から4期間にわたり、毎期1株当たり30円の特別配当を実施
- 自己株式の取得を機動的に実施

1株当たり配当金の推移(円)



普通配当	80	80	102	総還元性向基準	総還元性向基準
特別配当	-	30	30	30	30
配当性向	73.7%	52.9%	*23.3% (実質40%)	40～50% +特別配当	40～50% +特別配当

*2025年3月期は特別利益のうち川口製造事業所売却益(法人税控除後)を控除した金額に対して配当性向40%相当額

キャッシュ・アロケーション(3カ年累計)

